

MAKE THE
WORLD SEE

Milestone Systems

XProtect® Incident Manager 2023 R2

ユーザーマニュアル



目次

著作権、商標、および免責条項	4
サポートされるVMS製品とバージョン	5
概要	6
新機能	6
XProtect Incident Manager 2023 R1の新機能	6
本書とeラーニングコース	6
XProtect Incident Manager	6
操作	8
XProtect Incident Managerによるインシデントの文書化と管理	8
インシデントプロジェクトとインシデントプロパティ	8
インシデントプロジェクトの作成	9
インシデントプロジェクトの作成	9
インシデントプロジェクトをリアルタイムに作成する	9
インシデント発生後にインシデントプロジェクトを作成する	10
新しいインシデントプロジェクトに再生シーケンスを追加する	11
新しいインシデントプロジェクトに再生シーケンスを1つ追加する	12
ビデオなしのインシデントプロジェクトを作成する	13
インシデントプロジェクトの編集	14
インシデントプロジェクトに追加のシーケンスを追加する	14
シーケンスを1つ追加する	14
複数のシーケンスを追加する	15
ステータス、コメント、その他プロパティを変更する	15
インシデントプロジェクトからシーケンスを削除する	16
インシデントプロジェクトをフィルター検索する	17
インシデントプロジェクトでビデオを表示する	17
インシデントプロジェクトのユーザーアクティビティログを表示する	17
インシデントプロジェクト情報からなるレポートを作成する	18
インシデントプロジェクトをエクスポートする	18
インシデントプロジェクトを削除する	19

トラブルシューティング	20
XProtect Incident Managerトラブルシューティング	20
XProtect Smart Clientのメッセージ	20
用語集	22

著作権、商標、および免責条項

Copyright © 2023 Milestone Systems A/S

商標

XProtectはMilestone Systems A/Sの登録商標です。

MicrosoftおよびWindowsは、Microsoft Corporationの登録商標です。App StoreはApple Inc.のサービスマークです。AndroidはGoogle Inc.の商標です。

本文書に記載されているその他の商標はすべて、該当する各所有者の商標です。

免責条項

このマニュアルは一般的な情報を提供するためのものであり、その作成には細心の注意が払われています。

この情報を使用することにより発生する危険の責任はすべてその使用者にあるものとします。また、ここに記載されている内容はいずれも、いかなる事項も保証するものではありません。

Milestone Systems A/Sは、事前の通知なしに変更を加える権利を有するものとします。

本書の例で使用されている人物および組織の名前はすべて架空のものです。実在する組織や人物に対する類似性は、それが現存しているかどうかにかかわらず、まったく偶然であり、意図的なものではありません。

この製品では、特定の契約条件が適用される可能性があるサードパーティ製ソフトウェアを使用することがあります。その場合、詳細はお使いのMilestoneシステムインストールフォルダーにあるファイル3rd_party_software_terms_and_conditions.txtを参照してください。

サポートされるVMS製品とバージョン

このマニュアルでは、次のXProtectVMS製品によりサポートされる機能が記載されています。

- XProtect Corporate
- XProtect Expert
- XProtect Professional+
- XProtect Express+

Milestoneは、上記のXProtect VMS製品の現行のバージョンと以前の2つのバージョンを使用して、本書に記載されている機能をテストします。

新しい機能が現在のリリースバージョンでのみサポートされており、以前のリリースバージョンではサポートされていない場合は、機能の説明にこれに関する情報が記載されています。

概要

新機能

XProtect Incident Manager 2023 R1の新機能

- GDPRまたは個人データに関するその他の適用法を遵守するために、XProtect Management Clientのシステム管理者はインシデントプロジェクトの保存期間を定義できます。

XProtect Incident Manager 2022 R3の新機能

- XProtect Incident Managerアドオンは、XProtect Expert、XProtect Professional+、およびXProtect Express+のバージョン2022 R3以降にも対応するようになりました。
- XProtect Incident Managerは10,000件以上のインシデントプロジェクトを表示できるようになりました。

XProtect Incident Manager 2022 R2の新機能

- このアドオンの最初のリリース
- XProtect Incident Managerアドオンは、XProtect Corporateのバージョン2022 R2以降、およびXProtect Smart Clientのバージョン2022 R2以降で使用することができます。

本書とeラーニングコース

本書は、XProtect Incident Managerの機能を使って強力なエビデンスを収集する方法を説明します。

MilestoneはすべてのXProtect製品にeラーニングコースを提供しています。Milestone Learning Portalの<https://learn.milestonesys.com/index.htm>をご覧ください。

XProtect Incident Managerのコースを探すには、**incident manager**を検索してください。**XProtect Incident Managerの使用**コースはXProtect Smart Clientのオペレータ用で、**XProtect Incident Managerの設定**コースはXProtect Management Clientのシステム管理者用です。

XProtect Incident Manager

Milestoneは、追加機能を与えるため、XProtectを統合したアドオン製品を開発しました。アドオン製品へのアクセスは、ご自身のXProtectライセンスファイルで制御されています。



使用可能な機能は、使用しているシステムによって異なります。すべての機能に関するリストをご確認ください。リストは、Milestoneウェブサイト (<https://www.milestonesys.com/solutions/platform/product-index/>) の製品概要ページで提供されています。

XProtect Incident Managerは、組織がインシデントを文書化したり、Milestone VMSからのシーケンスエビデンス（ビデオ、音声でも可）と組み合わせたりすることを可能にするXProtectのアドオンです。



XProtect Incident Managerのユーザーはインシデントプロジェクトのすべてのインシデント情報を保存することが可能です。インシデントプロジェクトから、各インシデントのステータスとアクティビティを追跡することができます。このようにして、ユーザーはインシデントを効果的に管理し、内部的には同僚と、外部的には当局と強力なインシデントのエビデンスを簡単に共有できます。

XProtect Incident Manager は、調査対象の場所で起きているインシデントを概観および理解するのに役立ちます。この知識により、組織は同様のインシデントが今後発生する可能性を最小限に抑えるための手順を実装できます。

XProtect Management Clientでは、組織のXProtect VMSのシステム管理者は、XProtect Incident Managerにおいて使用可能なインシデントプロパティを組織のニーズに合わせて定義することができます。XProtect Smart Clientのオペレータはインシデントプロジェクトを開始、保存、管理し、インシデントプロジェクトにさまざまな情報を追加することができます。これには、フリーテキスト、システム管理者が定義したインシデントプロパティ、およびXProtectVMSからのシーケンスが含まれます。完全なトレーサビリティを実現するために、XProtectVMSは、システム管理者がインシデントプロパティを定義および編集するとき、およびオペレータがインシデントプロジェクトを作成および更新するときにログを記録します。

操作

XProtect Incident Managerによるインシデントの文書化と管理

XProtect Incident Managerアドオンがインストールおよび設定され、VMSのシステム管理者によってユーザーに必要な権限が付与されると、そのユーザーはXProtect Smart Clientでインシデントを資料化および管理し、インシデントプロジェクトにすべての情報を保存できます。

インシデントタブでは、インシデントプロジェクトを表示・更新したり、インシデントを管理したりできます。通常、ユーザーは、インシデントプロジェクトにシーケンスおよびさまざまなテキスト情報を追加することで、インシデントの発生日時に起きたこと資料化して証明します。

インシデント管理では、以下を行うことができます。

- インシデントプロジェクトのリストをフィルタリングして、関連するインシデントプロジェクトを素早く検索する
- さまざまなインシデントプロジェクトのステータスとタイプ、開始および終了時刻、説明を表示する
- インシデント管理の最新のアクションおよびその他の展開でインシデントプロジェクトを更新する
- レポートを作成およびインシデントプロジェクトのシーケンスをエクスポートすることで社内または社外とエビデンスを共有する

インシデントプロジェクトとインシデントプロパティ

XProtect VMSのシステム管理者によってXProtect Incident Managerが設定され、必要な権限が付与されると、インシデントプロジェクトにインシデントに関するすべての情報を保存することができます。

保存されたすべてのインシデントプロジェクトは、**インシデント**タブで確認できます。インシデントプロジェクトは何件でも保存可能です。リストには1ページあたり100件のインシデントプロジェクトが表示され、最も最近作成されたものが一番上に表示されます。**インシデント**タブから、インシデントプロジェクトを管理・更新したり、レポートおよびエクスポートを使用して他の人とインシデントプロジェクトを共有したりできます。

インシデントプロジェクトに追加できる情報と、定義できるプロパティは以下の通りです。

- XProtectVMSからのビデオおよび場合によっては音声入りのシーケンス
- インシデントプロパティ（タイプ、ステータス、カテゴリ、データ要素など）
- コメント、説明などの情報、電話に関する情報。

XProtect VMS管理者は、インシデントプロジェクトに割り当てられるインシデントプロパティを定義します。インシデントプロジェクトには、いつでも自由形式のテキスト情報およびXProtect VMSからのシーケンスを追加することができます。

新しいインシデントプロジェクトを作成すると、インシデントタイプを指定して、説明を付けることができます。インシデントプロジェクトを作成した後で、追加の情報を後で追加するのはよくあることです。そのためには、**インシ**

デントタブからインシデントプロジェクトをダブルクリックして開きます。そして、各種タブに用意されている各種情報およびプロパティを追加・編集します。必要に応じてレポートおよびエクスポートを使用してインシデントプロジェクトの情報を他の人と共有することもできます。

インシデントプロジェクトの作成

インシデントプロジェクトの作成

インシデントプロジェクトを作成する方法はいくつかあります。どの方法が最適かは、以下の条件によって異なります。

- インシデントを発見した場合。
- 状況が継続していて、その場で解決する必要があるため、インシデントプロジェクトを作成する時間がほとんどまたはまったくない場合。
- インシデントプロジェクトに追加するシーケンスがない場合。
- 個人的な判断による場合。

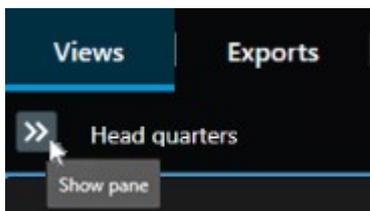


シーケンスとインシデントプロジェクトにシステム管理者が定義した保存期間より長期間の間、インシデントプロジェクトにシーケンスと情報が必要な場合は、インシデントプロジェクトをエクスポートしてレポートを生成します。 [ページ18のインシデントプロジェクトをエクスポートする](#) および [ページ18のインシデントプロジェクト情報からなるレポートを作成する](#) を参照してください。

インシデントプロジェクトをリアルタイムに作成する

継続中にインシデントがあることに気付いたが、個人的にサイトの状況を解決する必要がない場合は、以下の方法に従ってシーケンスを追加し、インシデントを文書化します。

1. ライブモードで、**表示ペイン**を選択します。

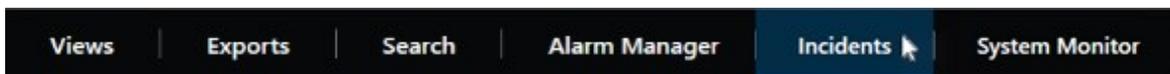


2. **MIPプラグイン区画とインシデントから、インシデントプロジェクトを開始**を選択します。XProtect Incident Managerによって現在のビューでシーケンスの収集が開始されます。
 - オプション。ビューを切り替えて、インシデントに関連する人物およびオブジェクトを追います。
 - オプション。支援を求めて現場で状況を解決します。

3. インシデントが停止し、それ以上のエビデンスが必要なくなったら、[インシデントプロジェクトを保存]を選択します。
4. インシデントのタイプを選択し、インシデントプロジェクトの説明を入力します。保存を選択します。

新しいインシデントプロジェクトに情報を追加するには、以下の手順に従います。

1. **インシデント**タブを選択し、作成したインシデントプロジェクトをダブルクリックして開きます。



2. インシデントに関する以下の必要なデータを記入してください。
 - **主な情報**タブで、インシデントの管理ステータスを選択します。
 - **カテゴリ**タブで、組織に合わせてVMSシステム管理者が定義した各種プロパティを選択または入力します。
 - **コメント**タブでインシデントに関する自由形式のテキスト 情報を入力します。
可能な場合は、コメントを記述し、インシデントプロジェクトがVMSからのシーケンスがなくても完了するようにします。
 - **シーケンスリスト**タブで、インシデントプロジェクトに追加したすべてのシーケンスを確認できます。すべてのシーケンスに関連性があることを確認し、関連性がないシーケンスは削除します。
 - **電話**タブで、インシデントに関連して自分でかけた電話または受けた電話に関する情報を追加します。

3. **保存**を選択します。

インシデントプロジェクトに追加のシーケンスを追加したい場合は、[ページ14のインシデントプロジェクトに追加のシーケンスを追加する](#)を参照してください。



シーケンスとインシデントプロジェクトにシステム管理者が定義した保存期間より長期間の間、インシデントプロジェクトにシーケンスと情報が必要な場合は、インシデントプロジェクトをエクスポートしてレポートを生成します。[ページ18のインシデントプロジェクトをエクスポートする](#)および[ページ18のインシデントプロジェクト情報からなるレポートを作成する](#)を参照してください。

個人的な判断に従って、インシデントプロジェクトを作成するその他の方法を利用することもできます。[ページ10のインシデント発生後にインシデントプロジェクトを作成する](#)または[ページ13のビデオなしのインシデントプロジェクトを作成する](#)を参照してください。

インシデント発生後にインシデントプロジェクトを作成する

インシデント発生後にインシデントプロジェクトを作成する方法を2つあります。

- シーケンスを1つずつ追加し、ドラフトシーケンスリストから新しいインシデントプロジェクトにまとめて保存します。[ページ11の新しいインシデントプロジェクトに再生シーケンスを追加する](#)を参照してください。
- シーケンスを1つだけ追加して、新しいインシデントプロジェクトに直接保存します。[ページ12の新しいインシデントプロジェクトに再生シーケンスを1つ追加する](#)を参照してください。

新しいインシデントプロジェクトに再生シーケンスを追加する

1. ライブまたは再生モードで、追加したいシーケンスのビューアイテム右下隅にある**インシデントプロジェクトに追加する**アイコンを選択します。



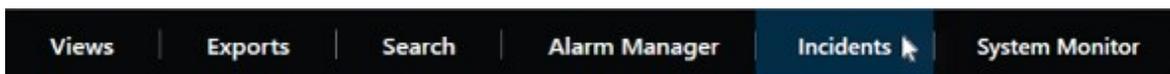
2. **ドラフトシーケンスリストに追加**を選択します。
3. **[開始時刻を選択]**を選択し、インシデントの発生開始位置までタイムライン追跡をドラッグします。
4. **インシデントプロジェクトに追加**を再び選択し、終了時刻の選択を続けます。
5. **[終了時刻を選択]**を選択し、インシデントの終了位置までタイムライン追跡をドラッグします。
6. 再び**インシデントプロジェクトに追加**を選択し、**OK**を選択します。

前の手順を必要な回数だけ繰り返して、インシデントプロジェクトの関連シーケンスをすべて取得します。

7. **インシデントプロジェクトに追加**アイコンを選択し、**ドラフトシーケンスリストを表示**を選択します。
8. **新規インシデントプロジェクトにすべて追加**を選択します。
9. インシデントのタイプを選択し、インシデントプロジェクトの説明を入力します。**保存**を選択します。

新しいインシデントプロジェクトに情報を追加するには、以下の手順に従います。

1. **インシデントタブ**を選択し、作成したインシデントプロジェクトをダブルクリックして開きます。



2. インシデントに関する以下の必要なデータを記入してください。
 - **主な情報**タブで、インシデントの管理ステータスを選択します。
 - **カテゴリー**タブで、組織に合わせてVMSシステム管理者が定義した各種プロパティを選択または入力します。
 - **コメント**タブでインシデントに関する自由形式のテキスト 情報を入力します。

可能な場合は、コメントを記述し、インシデントプロジェクトがVMSからのシーケンスがなくても完了するようにします。

- シーケンスリストタブで、インシデントプロジェクトに追加したすべてのシーケンスを確認できます。すべてのシーケンスに関連性があることを確認し、関連性がないシーケンスは削除します。
- 電話タブで、インシデントに関連して自分でかけた電話または受けた電話に関する情報を追加します。

3. **保存**を選択します。

インシデントプロジェクトに追加のシーケンスを追加したい場合は、[ページ14のインシデントプロジェクトに追加のシーケンスを追加する](#)を参照してください。

新しいインシデントプロジェクトに再生シーケンスを1つ追加する

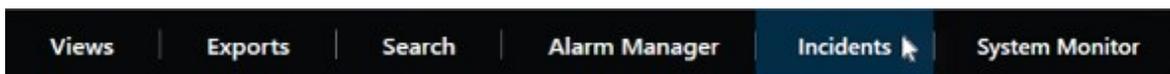
1. ライブまたは再生モードで、追加したいシーケンスのビューアイテム右下隅にある**インシデントプロジェクトに追加する**アイコンを選択します。



2. **新規インシデントプロジェクトに追加**を選択します。
3. **[開始時刻を選択]**を選択し、インシデントの発生開始位置までタイムライン追跡をドラッグします。
4. **インシデントプロジェクトに追加**を再び選択し、終了時刻の選択を続けます。
5. **[終了時刻を選択]**を選択し、インシデントの終了位置までタイムライン追跡をドラッグします。
6. 再び**インシデントプロジェクトに追加**を選択し、**OK**を選択します。
7. インシデントのタイプを選択し、インシデントプロジェクトの説明を入力します。**保存**を選択します。

新しいインシデントプロジェクトに情報を追加するには、以下の手順に従います。

1. **インシデント**タブを選択し、作成したインシデントプロジェクトをダブルクリックして開きます。



2. インシデントに関する以下の必要なデータを記入してください。
 - **主な情報**タブで、インシデントの管理ステータスを選択します。
 - **カテゴリー**タブで、組織に合わせてVMSシステム管理者が定義した各種プロパティを選択または入力します。
 - **コメント**タブでインシデントに関する自由形式のテキスト 情報を入力します。
可能な場合は、コメントを記述し、インシデントプロジェクトがVMSからのシーケンスがなくても完了するようにします。
 - **シーケンスリスト**タブで、インシデントプロジェクトに追加したすべてのシーケンスを確認できま

す。すべてのシーケンスに関連性があることを確認し、関連性がないシーケンスは削除します。

- **電話**タブで、インシデントに関連して自分でかけた電話または受けた電話に関する情報を追加します。

3. **保存**を選択します。

インシデントプロジェクトに追加のシーケンスを追加したい場合は、[ページ14のインシデントプロジェクトに追加のシーケンスを追加する](#)を参照してください。

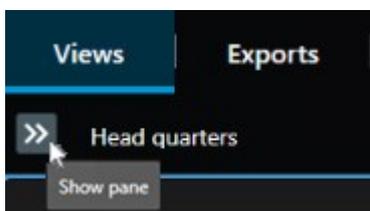


シーケンスとインシデントプロジェクトにシステム管理者が定義した保存期間より長期間の間、インシデントプロジェクトにシーケンスと情報が必要な場合は、インシデントプロジェクトをエクスポートしてレポートを生成します。[ページ18のインシデントプロジェクトをエクスポートする](#)および[ページ18のインシデントプロジェクト情報からなるレポートを作成する](#)を参照してください。

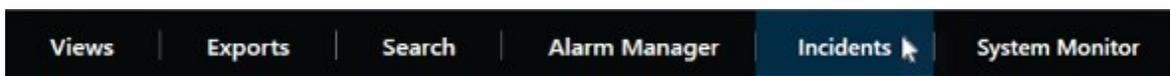
ビデオなしのインシデントプロジェクトを作成する

VMSからのシーケンスなしでインシデントプロジェクトを開始する場合は、以下の方法を使用します。この方法は、すぐにシーケンスを追加する時間がない、またはVMSから追加するシーケンスがないが、XProtect Smart Clientで他のインシデントプロジェクトと一緒にシーケンス無しのインシデントを文書化し、管理する場合に利用できます。シーケンスがある場合は、後でいつでも追加できます。

1. ライブモードで、**表示ペイン**を選択します。



2. **MIP プラグイン区画とインシデント**から、**空のインシデントプロジェクトの作成**を選択します。
3. **インシデント**タブを選択し、作成したインシデントプロジェクトをダブルクリックして開きます。



4. インシデントに関する以下の必要なデータを記入してください。
 - **主な情報**タブで、インシデントの管理ステータスを選択します。
 - **カテゴリ**タブで、組織に合わせてVMSシステム管理者が定義した各種プロパティを選択または入力します。
 - **コメント**タブでインシデントに関する自由形式のテキスト 情報を入力します。

可能な場合は、コメントを記述し、インシデントプロジェクトがVMSからのシーケンスがなくても完了するようにします。

- シーケンスリストタブで、インシデントプロジェクトに追加したすべてのシーケンスを確認できます。すべてのシーケンスに関連性があることを確認し、関連性がないシーケンスは削除します。
- 電話タブで、インシデントに関連して自分でかけた電話または受けた電話に関する情報を追加します。

5. **保存**を選択します。

インシデントプロジェクトに追加のシーケンスを追加したい場合は、[ページ14のインシデントプロジェクトに追加のシーケンスを追加する](#)を参照してください。



シーケンスとインシデントプロジェクトにシステム管理者が定義した保存期間より長期間の間、インシデントプロジェクトにシーケンスと情報が必要な場合は、インシデントプロジェクトをエクスポートしてレポートを生成します。[ページ18のインシデントプロジェクトをエクスポートする](#)および[ページ18のインシデントプロジェクト情報からなるレポートを作成する](#)を参照してください。

インシデントプロジェクトの編集

インシデントプロジェクトに追加のシーケンスを追加する

インシデントプロジェクトをリアルタイムに作成すると、そのインシデントが始まる前に起きていたことを示すシーケンスを追加したくなる場合があります。

シーケンスを1つ追加する

1. ライブまたは再生モードで、追加したいシーケンスのビューアイテム右下隅にある**インシデントプロジェクトに追加する**アイコンを選択します。



2. **既存のインシデントプロジェクトに追加**を選択します。
3. **[開始時刻を選択]**を選択し、インシデントの発生開始位置までタイムライン追跡をドラッグします。
4. **インシデントプロジェクトに追加**を再び選択し、終了時刻の選択を続けます。
5. **[終了時刻を選択]**を選択し、インシデントの終了位置までタイムライン追跡をドラッグします。
6. 再び**インシデントプロジェクトに追加**を選択し、**OK**を選択します。
7. そのシーケンスの追加先のインシデントプロジェクトを選択します。


 特定のインシデントプロジェクトを検索できない場合は、フィルターオプションを使用できます。[ページ17のインシデントプロジェクトをフィルター検索する](#)を参照してください。

複数のシーケンスを追加する

1. ライブまたは再生モードで、追加したいシーケンスのビューアイテム右下隅にある**インシデントプロジェクトに追加する**アイコンを選択します。



2. **ドラフトシーケンスリストに追加**を選択します。
3. **[開始時刻を選択]**を選択し、インシデントの発生開始位置までタイムライン追跡をドラッグします。
4. **インシデントプロジェクトに追加**を再び選択し、終了時刻の選択を続けます。
5. **[終了時刻を選択]**を選択し、インシデントの終了位置までタイムライン追跡をドラッグします。
6. 再び**インシデントプロジェクトに追加**を選択し、**OK**を選択します。
7. 前の手順を必要な回数だけ繰り返して、インシデントプロジェクトの関連シーケンスをすべて取得します。
8. **インシデントプロジェクトに追加**アイコンを選択し、**ドラフトシーケンスリストを表示**を選択します。
9. 既存のインシデントプロジェクトに追加するドラフトシーケンスリストでシーケンスを選択し、**既存のインシデントプロジェクトにすべて追加**を選択します。
10. そのシーケンスの追加先のインシデントプロジェクトを選択します。


 特定のインシデントプロジェクトを検索できない場合は、フィルターオプションを使用できます。[ページ17のインシデントプロジェクトをフィルター検索する](#)を参照してください。

ステータス、コメント、その他プロパティを変更する

一般に、既存のインシデントプロジェクトを更新することで、インシデント管理を最適化し、インシデントに関する最新の展開および情報を資料化することができます。

インシデントプロジェクトの更新が必要となるケースの例：

- インシデント管理ステージのステータスが変わったため、インシデントプロジェクトのステータスも更新する必要がある。
- インシデントに関連して後で自分で電話をかけたか、電話を受けたため、インシデントプロジェクトにその

通話情報を追加する必要がある場合。

- インシデントプロジェクトをエクスポートしたため、組織のネットワークにそのエクスポートを保存した場所に関するコメントを追加する必要がある。

インシデントプロジェクトを更新する

1. **インシデント**タブを選択し、更新したいインシデントプロジェクトをダブルクリックします。



特定のインシデントプロジェクトを検索できない場合は、フィルターオプションを使用できます。[ページ17のインシデントプロジェクトをフィルター検索する](#)を参照してください。

2. インシデント管理のステータスは、**主な情報**タブで更新できます。インシデントのタイプも変更できますが、通常、このプロパティは経時変化しません。
ID、作成者または開始および終了時間プロパティは変更できません。
3. **[カテゴリー]** タブで、関連するカテゴリーを選択して更新します。
4. **コメント**タブでインシデントに関する自由形式のテキスト 情報を追加入力します。
5. **電話**タブで、インシデントに関連して後で自分でかけた電話または自分で受けた電話に関する情報を追加します。

インシデントプロジェクトからシーケンスを削除する

インシデントに関係のないシーケンスをインシデントプロジェクトに追加していた場合は、削除することができます。

1. **インシデント**タブを選択し、更新したいインシデントプロジェクトをダブルクリックします。



特定のインシデントプロジェクトを検索できない場合は、フィルターオプションを使用できます。[ページ17のインシデントプロジェクトをフィルター検索する](#)を参照してください。

2. **Sequence list (シーケンスリスト)** タブで削除したいシーケンスを選択します。



選択したシーケンスに間違いがないか不確かな場合は、**View video (ビデオを表示)** を選択して確認します。[ページ17のインシデントプロジェクトでビデオを表示する](#)を参照してください。

3. **Remove (削除)** を選択し、確定します。

インシデントプロジェクトをフィルター検索する

インシデントプロジェクトを簡単に検索するために、さまざまな情報に基づきすべてのインシデントプロジェクトをフィルタリングできます。

1. **インシデント** タブを選択します。
2. 1つ以上のフィルターを使用して、特定のインシデントプロジェクトを検索します。
 - インシデントプロジェクト内の、指定した日時の前または後に開始されたシーケンス
 - インシデントプロジェクト内のシーケンスの時間範囲
 - インシデントプロジェクトのID
 - インシデントプロジェクトの説明のテキスト
3. インシデントプロジェクトを選択します。

インシデントプロジェクトでビデオを表示する

オペレータおよび同僚は、インシデントプロジェクトに追加されたビデオを表示することができます。例えば、インシデントを振り返ったり、初めて確認したり、以前のインシデントプロジェクトのエビデンスを、おそらく関連するであろう新しいインシデントプロジェクトのエビデンスと比較したりする場合があります。

1. **インシデント** タブを選択し、表示したいビデオを含むインシデントプロジェクトをダブルクリックします。
2. **Sequence list (シーケンスリスト)** タブを選択します。
3. **View video (ビデオを表示)** ボタンを選択します。
4. ウィンドウの右下角にあるシーケンスのリストから、表示するシーケンスを選択します。
5.  を選択してビデオを前方へ再生します。

インシデントプロジェクトのユーザーアクティビティログを表示する

インシデントプロジェクトに変更が加えられると、VMSによってそのインシデントプロジェクトに関するログが記録されます。このログには、変更点、変更者、変更の保存日時が記録されます。

1. **インシデント** タブを選択し、開きたいインシデントプロジェクトをダブルクリックします。



特定のインシデントプロジェクトを検索できない場合は、フィルターオプションを使用できます。[ページ17のインシデントプロジェクトをフィルター検索する](#)を参照してください。

2. **Activity logs (アクティビティログ)** タブを選択します。

アクティビティログエントリには、ユーザーが以下である場合の情報が表示されます。

- インシデントプロジェクトの作成、編集、開示/読み込み。
- タイプ、ステータス、およびカテゴリの値の適用、変更。
- コメントまたは電話に関する情報の追加、編集、削除。
- エクスポート対象のインシデントプロジェクトの送信。
- インシデントプロジェクトレポートの生成、印刷。
- シーケンスの追加、削除。

3. アクティビティログの内容を確認します。

インシデントプロジェクト情報からなるレポートを作成する

ユーザーは、インシデントプロジェクトに追加したすべてのテキスト情報を含むレポートを作成することができます。

インシデントプロジェクトは、その保存期間に達すると自動的に削除されます。したがって、インシデントプロジェクトにテキスト情報をエビデンスとして長期間保存する必要がある場合は、保存期間が切れる前にレポートを生成しなければなりません。

レポートを作成すると、印刷したり保存したりできます。同僚や警察、その他の人に、インシデントプロジェクトのエクスポート物と共にレポートを送信することができます。エクスポートには、インシデントプロジェクトに追加されているシーケンスが含まれます。[ページ18のインシデントプロジェクトをエクスポートする](#)を参照してください。

1. **インシデント**タブを選択します。
2. レポートを作成するインシデントプロジェクトを選択します。
3. **[レポートの作成]**を選択します。
4. デフォルトで、すべてのユーザー名はレポートで非表示です。**[ユーザー名を表示]**を選択して、名前を表示します。
5. レポートを印刷または保存するには、**[印刷]**を選択します。

印刷または保存レポートでユーザー名を非表示になるかどうかは、**[ユーザー名を表示]**の設定で決まります。

インシデントプロジェクトをエクスポートする

インシデントプロジェクトとシーケンスは、その保存期間に達すると自動的に削除されます。したがって、長期間エビデンスビデオが必要な場合は、保存期間が切れる前にプロジェクトをエクスポートしてください。

エクスポート対象としてインシデントプロジェクトを送信すると、そのインシデントプロジェクトのすべてのシーケンスが、**エクスポート**タブの**エクスポートリスト**に挿入されます。インシデントプロジェクトのシーケンスのエクスポートでは、**エクスポート**タブにあるすべての設定を利用できます。

エクスポート設定の詳細は、XProtect Smart Clientのユーザーマニュアルも参照してください。
(<https://doc.milestonesys.com/2023r2/ja-JP/portal/htm/chapter-page-sc-user-manual.htm>)。

インシデントプロジェクトに追加されているシーケンスをエクスポートする

1. **インシデント**タブを選択します。
2. エクスポートしたいインシデントプロジェクトを選択します。
3. **エクスポートのために送信**を選択します。

エクスポートタブが表示され、選択したインシデントプロジェクトのすべてのシーケンスが**エクスポートリスト**に追加されます。

4. エクスポートでご希望の形式とその他の設定を選択します。

エビデンスビデオを作成する方法の詳細は、XProtect Smart Clientのユーザーマニュアルも参照してください。
(<https://doc.milestonesys.com/2023r2/ja-JP/portal/html/chapter-page-sc-user-manual.htm>)。

一般に、エクスポートの保存または共有では、同じインシデントプロジェクトに追加されたすべてのテキスト情報を含むレポートを保存または共有することもできます。[ページ18のインシデントプロジェクト情報からなるレポートを作成する](#)を参照してください。

インシデントプロジェクトを削除する

インシデントプロジェクトが不要になった場合は、削除することができます。削除は元に戻せません。

1. **インシデント**タブを選択します。
2. 削除したいインシデントプロジェクトを選択します。
3. **Delete (削除)** を選択し、確定します。



インシデントプロジェクトの削除について疑問点や不明な点がある場合は、プロジェクトを開いて情報を確認してから削除できます。またビデオシーケンスを表示して、削除対象として間違ったインシデントプロジェクトを選択していないか確認してください。

トラブルシューティング

XProtect Incident Managerトラブルシューティング

XProtect Smart Clientのメッセージ

シーケンスを追加できません。後でもう一度お試しください。

VMSサーバーとの接続が不安定です。問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡してください。

システム管理者：ネットワークおよびすべてのVMSサーバー、サービスが稼動しているかどうか確認してください。

インシデントプロジェクトを作成できません。後でもう一度お試しください。

VMSサーバーとの接続が不安定です。問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡してください。

システム管理者：ネットワークおよびすべてのVMSサーバー、サービスが稼動しているかどうか確認してください。

レポートを生成できません。後でもう一度お試しください。

このメッセージでは2つの原因が考えられます。

- a. VMSサーバーとの接続が不安定です。問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡してください。

システム管理者：ネットワークおよびすべてのVMSサーバー、サービスが稼動しているかどうか確認してください。

- b. インシデントプロジェクトリストとシーケンスリストがリアルタイムに更新されていない。このため、XProtect Smart Clientのオペレータがこれらのリストのいずれかを開いていたときに、別のオペレータによってそのリストから項目が削除された場合、その削除されたリスト項目、またはそのリスト項目に含まれる要素を編集しようとする、このメッセージが表示されます。

例えばオペレータがインシデントプロジェクトノリスとを開いているときに、別のオペレータがインシデントプロジェクトを削除したと仮定します。その場合、コンピュータ上のリストには削除されたインシデントプロジェクトが表示されますが、レポートを生成しようとするこのエラーメッセージが返されます。

このアクションは実行できません。リストを更新してください。

インシデントプロジェクトリストとシーケンスリストがリアルタイムに更新されていない。このため、XProtect Smart Clientのオペレータがこれらのリストのいずれかを開いていたときに、別のオペレータによってそのリストから項目が削除された場合、その削除されたリスト項目を編集または保存しようとする、このメッセージが表示されます。

このアクションは実行できません。後でもう一度お試しください。

VMSサーバーとの接続が不安定です。問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡してください。

システム管理者：ネットワークおよびすべてのVMSサーバー、サービスが稼動しているかどうか確認してください。

すべてのシーケンスを削除することはできません。後でもう一度お試しください。

VMSサーバーとの接続が不安定です。問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡してください。

システム管理者：ネットワークおよびすべてのVMSサーバー、サービスが稼動しているかどうか確認してください。

[x]を保存できません。後でもう一度お試しください。

このメッセージはコメント、電話に関する情報、または別の設定の保存を試みたときに表示されます。このメッセージでは2つの原因が考えられます。

- a. VMSサーバーとの接続が不安定です。問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡してください。

システム管理者：ネットワークおよびすべてのVMSサーバー、サービスが稼動しているかどうか確認してください。

- b. インシデントプロジェクトリストとシーケンスリストがリアルタイムに更新されていない。このため、XProtect Smart Clientのオペレータがこれらのリストのいずれかを開いていたときに、別のオペレータによってそのリストから項目が削除された場合、その削除されたリスト項目、またはそのリスト項目に含まれる要素を編集しようとする、このメッセージが表示されます。

例えばオペレータがインシデントプロジェクトリストを開いているときに、別のオペレータがインシデントプロジェクトを削除したと仮定します。この後、削除されたインシデントプロジェクトをコンピュータから開くことはできますが、コメントや電話に関する情報の編集、インシデントステータスの変更、またはその他の操作を試みると、このエラーメッセージが返されます。

権限が拒否されました。

システム管理者が機能を使用する権限を付与していない。この機能なしでタスクを完了できない場合は、システム管理者に連絡してください。

レポートが生成されましたが、含まれていない情報があります。

レポートの生成中にVMSサーバーまたはサービスとの接続が失われました。レポートにインシデントプロジェクトら一部の情報が含まれていません。レポートを生成し直してみてください。

この情報は利用できません。

システム管理者が機能を使用する権限を付与していない。この機能なしでタスクを完了できない場合は、システム管理者に連絡してください。

用語集

X

XProtect Incident Manager

XProtect監視システムのアドオンとして使用できる製品。XProtect Incident Managerなら、XProtect Smart Client 以内にインシデントを文書化して管理できます。

あ

アクティビティログ

VMSで追加された、VMSでのユーザーのアクティビティを説明するログエントリ。

い

インシデント

組織のスタッフ、資産、運用、サービス、または機能の損傷、損失、混乱につながる可能性のある否定的または危険な行為または状況。

インシデントカテゴリー

インシデントに関するオプションの詳細。カテゴリーでインシデントに関するより詳細な情報を追加できます。インシデントカテゴリーには、インシデントのロケーション、共犯者の数、および当局の関与有無などが挙げられます。

インシデントタイプ

インシデントに関する詳細情報。タイプでそれがどのようなインシデントであるかを分類します。インシデントタイプの例を以下に挙げています。盗難、自動車事故、不法侵入。

インシデントのステータス

インシデントに関する詳細情報。インシデントステータスでインシデント調査の進捗を追跡できます。以下はインシデントステータスの例です。新規、処理中、保留中、処理済

インシデントのプロパティ

インシデントプロジェクトに対してカテゴリ、ステータス、タイプなど幅広いデータが定義できます

インシデントプロジェクト

インシデントに関するデータが保存されているプロジェクト。データには、ビデオ、音声、コメント、インシデントカテゴリー、およびその他のデータが含まれます。オペレータは、コメントを追加し、XProtect Smart Clientのインシデントプロジェクトに関連するインシデント特性を選択します。Management Clientでは、システム管理者は、インシデントプロジェクトを作成するときに、オペレータが使用できるインシデント特性を定義します。

インシデント管理

ネガティブな影響を伴う状況を迅速に修正して今後の再発を防ぐために、インシデントを識別、文書化、処理、および分析する組織のアクティビティ。インシデントも参照してください。

し

シーケンスリスト

XProtectVMSから発信されたビデオおよび場合によっては音声を使用した継続した録音/録画期間のリスト。

と

ドラフトシーケンスリスト

ビデオおよび場合によっては音声を使用した、継続した録音/録画期間の一時的なリスト。ユーザーは、1) 新しいインシデントプロジェクトを作成し、新しいプロジェクトにシーケンスを追加するか、2) 既存のインシデントプロジェクトにシーケンスを追加する最初のステップとして、ドラフトシーケンスリストにさまざまなシーケンスを追加できます。



helpfeedback@milestone.dk

Milestoneについて

Milestone Systemsはオープン プラットフォームの監視カメラ管理ソフトウェア (Video Management Software: VMS) の世界有数のプロバイダーです。お客様の安全の確保、資産の保護を通してビジネス効率の向上に役立つテクノロジーを提供します。は、世界の15万以上のサイトで実証された高い信頼性と拡張性を持つMilestone Systemsのソリューションにより、ネットワークビデオ技術の開発と利用におけるコラボレーションとイノベーションを促進するオープンプラットフォームコミュニティを形成します。Milestone Systemsは、1998年創業、Canon Group傘下の独立企業です。詳しくは、<https://www.milestonesys.com/>をご覧ください。

